

Toho

東邦キャンパス

Campus



vol.135

2022年(令和4年)1月発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市長久区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#) [検索](#)



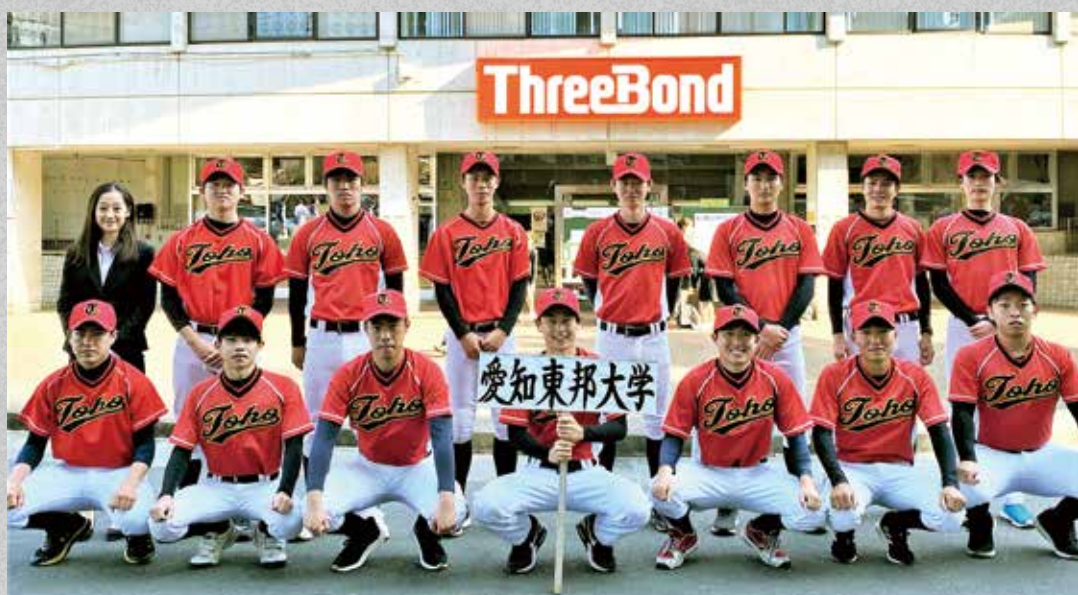
人工芝初の花笠踊り

人工芝グラウンドでは初の体育祭で花笠踊りに挑戦する1年生たち。
花笠踊りは1960年から始まった東邦名物です(10月1日)

特集

東邦学園
100周年

目次



9年ぶり東日本大会出場

大学軟式野球部が第42回東日本学生軟式野球選抜大会に9年ぶり3回目の出場を果たしました(11月20日、東京・八王子のスリーボンDstadiumで)

年頭所感



将来から見通して 「野心」を抱く

学園理事長 榎 直樹

皆さん 新年おめでとうございます。私たち学園は、来年の創立満100周年を新たに飛躍する機会と捉えて、高校も大学も教育及びその他の分野で、充実に向けた様々な発展策を打ち出していく方針です。

まず、新型コロナウイルスのまん延は、日本で下火になったものの、年明けから第6波が起き、警戒を依然緩められません。マスクを離せない日常が既に2年余、「新年の計」を立てる余裕などないでしょう。しかしそんな折、思わず唖ってしまう「野心的な姿勢」を耳にしました。5年に一度(今回はコロナ禍のため6年ぶり)しか開かれない、世界最高レベルの「ショパン・コンクール」で昨秋、第2位に輝いた反田恭平さん(27歳)の「人生を逆算して生きています」という言葉です。NHK等のインタビューから紹介します。

反田さんは「チケットが最も入手しにくい演奏家の一人」と言われ、既にピアニストとしては名を成しつつあります。ところが人生の最終目標は「(音楽で)世界から日本に留学に来てもらえるような学び舎を作

る」ことに据えています。彼自身もワルシャワの音楽院へ留学したように、日本のクラシック奏者は欧米で研鑽を重ねます。「日本の音楽教育が悪いとは全く思わないし、素晴らしい先生方もいますが、日本へ留学してくる子がいないのは事実です。それを変えたい」と、野心を語るのです。

この最終目標からの「逆算」は次のようなものです。〈モーツァルトのように自分で曲を書いて演奏して指揮もして、パトロンを探して、音楽に関わることをすべてやりたい〉⇒〈会社を立ち上げ、コンサートをプロデュースし、クラシックを大衆化するためSNSを使って発信、クラシック業界を変える〉⇒〈ショパン・コンクールで有名になる〉⇒〈フォルテッシモとピアノッシモを自在に操れるようにする〉⇒〈筋トレとポテトチップスをたくさん食べて体重を増やす〉……。コミカルであり、周到ですね。

いかがです? 国際的世論調査によると、日本の若者は自己肯定感が各国の中で一番低く、将来への希望も最も冷めているそうです。でも、27歳の抱く「野心」を聞くと、嬉しくなり、強く勇気づけられますね。学園も、日本人の若者が大幅に減る21世紀半ばに差しかかっても、歴史を紡ぎ続けられるよう、「逆算」しながら今のうちに諸計画を進めます。ご支援もよろしくお願いします。



年の初めに

東邦高等学校校長
藤本 紀子

皆さま、明けましておめでとうございます。本年も東邦高等学校に、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

さて、東邦学園・東邦高等学校は来年2023年に100周年を迎えます。1923年、下出民義先生が東邦商業学

校を創設されて以来、建学の精神「真に信頼され事を任せうる人格の育成」を「真面目」に追求し、本校は4万8千人余りの卒業生を世に送り出してまいりました。今では「親子3代にわたって東邦に通っている」、「東邦生同士で結婚して子どもも東邦に入学しました」という嬉しいご報告をいただくことも多く、その度に「東邦高校に勤めてよかった」と私学人としての誇りと幸せを噛みしめ、感謝の気持ちでいっぱいになります。

100周年に向けて、東邦学園はいくつかの大きなプロジェクトに取り組みます。100周年のその先も、皆さまの期待に応え、皆さまにますます愛される母校になれるよう、教職員一同より良い教育活動に邁進して



新たな年を 迎えて

愛知東邦大学長
鶴飼 裕之

あけましておめでとうございます。

皆さま、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中に皆さまから賜りました本学の教育研究活動へのご支援に対して厚くお礼申し上げます。本年も、本学がめざす目標に向かって一步一步確実に前進してまいります。

さて、「個性を磨き、地域・世界へと繋がる共感力を育む人材育成の拠点形成」をめざす大学改革“AICHI-TOHO NEXT CHALLENGE 2030”は本年2年目を迎えます。愛知東邦大学独自の総合教養教育構想“TOHO Liberal Arts”は、技術革新が急速に進展する未来において、AIには果たせない真に人が果たすべき役割を十分に考えて実行でき、共感力をもって信頼できる人間関係を築くことができる人材の育成をめざしています。新キャンパス創生に向けた計画構想では、学園一体となって進めるDX推進とともに、従来の固定化

した教室型教育から脱してPhysical & Virtual両面でOpen & Closedな次世代クラスルームの構築をめざしています。少子超高齢化社会は大学にとっては喫緊の課題ですが、一方で、リカレント教育、高度専門職業人養成、奨学金支援制度を活用した入学者の拡大、留学生獲得と日本人学生の留学促進のための海外戦略、そして女子学生の入学拡大など、新たな入学者層の開拓は、本学にとって大きなチャンスといえます。多様な人々が共生し、互いに能力を高め合うことで大学に活力を生み、新たな価値を創造するDiversity & Inclusionキャンパスをめざしてまいります。

今年は、十干十二支で「壬寅(みずのえとら)」。安岡正篤「干支の活学」によれば、「壬」は「任用」に通じ、「大事な問題を任せる人間を用いる」ことを意味し、また、「寅」は、敬んで協力する「寅亮(いんりょう)」に通じ、「志を同じうするもの相約し、敬んで時務を進める」ことを意味すると言われています。建学の精神「真に信頼して事を任せよう的人格の育成」を掲げ、改革ビジョンに向かって学生と教職員が一体となって邁進するのに相応しい年になりそうです。

皆さまの一層のご理解、ご支援をお願いするとともに、皆さまにとって実り多き年となりますことを心より祈念いたします。

まいります。今後は募金のお願いなどをさせていただくこともございますが、ご支援ご協力を賜ることができましたら幸いです。

「新しき年の初めの初春の今日降る雪のいや重けよごと」

万葉歌人であり、万葉集の編纂にも携わったと言われる大伴家持は、天平宝字3年(759年)正月、国司として赴任していた因幡国(今の鳥取県)での新年の饗宴でこの歌を詠みました。正月に雪が降ることは豊作の

予兆と言われていた当時、「この豊作の予兆のように、今年も良いことが積み重なっていきますように」と新年を寿いだのです。

万葉集の最後の歌としても名高いこの歌には、新しい年を迎えた喜びと、良い年になってほしいという強い願いが込められています。晴れがましく力強いこの調べを、今年ほど頼もしく、心強く感じる年はありません。「今年こそ良い年になりますように」と皆様と共に心から祈って、私の新年のごあいさつといたします。

特集
1

「はばたき 新時代へ」掲げ 100周年事業が始動

創立100周年を1年後に迎える東邦学園。1923（大正12）年の東邦商業学校開校以来、100年に及ぶ歴史を礎に、新たなはばたきへの指針を込めた「100周年事業」が本格的に始動します。東邦学園は中京地域の産業基盤作りに関わった創立者下出民義先生が掲げた建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」のもと7万人近い人材を世に送り出してきました。100周年事業行事の目的、コンセプト、記念事業などを紹介します。

大学・高校の諸環境を整備

事業及び行事の目的

- ①2023年の学園創立100年、2025年の大学創立25周年を節目として、学園全体として大きく発展、充実を図る契機とします。
- ②主体性を持って多様な人々と協働し、持続可能な社会の担い手となる人材を育成するプログラムの充実と、建学の精神に基づく「真に信頼される人材」を輩出する使命に向けた教育事業に取り組みます。
- ③「高大連携」を進め、「学園ブランド」の一層の醸成に資する事業を推進します。
- ④ICT活用による次世代型人材育成及び業務のDX化を推進するため、大学・高校の諸環境を整備します。
- ⑤上記の構想を実現するため募金活動を行います。当面の目標額は5億円とします。
- ⑥100年の伝統と偉業を顕彰すると共に、支援を頂いている卒業生や地域の方々へ感謝する機会とします。

コンセプトは「はばたき 新時代へ」

事業のコンセプト

キーコンセプトは「はばたき 新時代へ」です。学園100周年を機に、若者には、高く掲げた志に向けて飛翔してほしいと願い、学園はその志を支援して、自らも新時代へとはばたく決意を表わしているデザインです。

下出民義先生は、学園創立の趣旨を、「将来実業界に立つ有為なる青少年の教育にあるは言う迄もない。特に青年特有の果敢なる精神を失はず、真に信頼し得る人格を造るといふ点に重きを置き度い。自己の懈怠（らんだい＝なまける）なる精神に鞭うって、進む可（べ）き途（みち）に真直ぐに進むだけの絶大な勇気が必要である」（1925年7月、『東邦』創刊号の「本校教育の理想」より）と述べられています。キーコンセプトとロゴマークには、1世紀前の訓をかみしめ、新たな時代に向かう意思が込められているものです。

購入地に新校舎を順次建設

教育事業並びに記念事業

▽施設・設備について

- ①高校運動施設の快適化
『高校グラウンドとテニスコートの人工芝化』は2021年3月に完了。高校の外観イメージが一変しました。
- ②学園総合キャンパス構想
大学隣地に確保した新たな購入地2か所に新校舎を順次建設します。高校用に「創作棟（仮称）を新たに設けると共に、高校特別棟はワンフロアを全面改修する予定です。また平和公園とつながる購入地には周囲の環境を生かし、大学生のみならず、高校生も利用できる施設を新築します（第一期は2025年度工目標）。
- ③学園DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
新たな教育活動の展開を踏まえ、大学・高校設備を更新し、学生・生徒が積極的に学ぶICT環境を整備します。

ビジネス人材育成へ大学院を設置

▽人材育成について

- ④TOHO Global Initiative
高校は、世界各国の高校との繋がりを活かし、地球規模の共通課題や目標について学び、打開策・解決策を探究する普通科国際探究コースを、2024年度から国際探究学科に格上げします。大学は、高大一体的なグローバル教育システムを構築します。アジアからの留学生受入れや人的交流を促進するため、アジア人財育成プログラムを強化発展、外国語教育を推進します。
- ⑤ビジネス系高度専門職人材の育成
知識偏重型から脱却して、実践的なビジネス人材の育成を目指すビジネス系大学院を設置（2025年度以降開設）し、「アントレプレナー育成プログラム」（仮称：2023年度）を開講する構想を進めます。大学

東邦学園の歩み

| | |
|----------|---|
| 1923年 3月 | 下出民義、東邦商業学校を設立 |
| 1924年 3月 | 名古屋市東区赤萩町に新校舎完成 |
| 1934年 4月 | 第11回選抜中等学校野球大会で初優勝(1939年と1941年にも優勝) |
| 1935年 1月 | 姉妹校の金城商業学校発足 |
| 1942年 2月 | 下出教育報効財団を設立 |
| 1944年12月 | 勤労動員中の教員2人と生徒18人が三菱重工で空襲の犠牲に |
| 1948年 4月 | 新制東邦中学、東邦高校、金城夜間商業高校発足 |
| 1951年 3月 | 私立学校法施行で学校法人に組織変更 |
| 1953年11月 | 体育館完成 |
| 1958年11月 | 千種区猪高町(現・名東区平和が丘)に総合グラウンド完成 |
| 1965年 4月 | 東邦学園短期大学を開設、商業科を設置 |
| 1966年 3月 | 東邦中学休校(1974年 1月廃校) |
| 1971年 3月 | 東邦高校、名東区平和が丘に移転(現在地) |
| 7月 | 東郷町にグラウンド完成 |
| 1972年12月 | 高校、体育館竣工 |
| 1977年 8月 | 第59回全国高校野球選手権で準優勝。高校、温水プール完成 |
| 1981年10月 | 短大、図書館竣工 |
| 1983年 6月 | 「うるぎ山荘」竣工(長野県栗木村) |
| 1985年 4月 | 高校、男子校から男女共学に転換し第1期生入学 |
| 1987年 4月 | 短大、商経科に名称変更。商業実務、経営実務、秘書の3専攻に |
| 1988年 3月 | 短大、スチューデント・ホール竣工 |
| 9月 | 高校、南京外国語学校と姉妹校提携 |
| 1989年 4月 | 第61回選抜高校野球大会で4度目の優勝(前年は準優勝) |
| 1990年 4月 | 高校、普通科に国際コース・理数コースを新設 短大、米国エベレット・コミュニティ・カレッジと姉妹校提携 |
| 1991年 4月 | 高校、普通科に美術コース新設 |
| 1992年 4月 | 短大、経営情報科を新設 |
| 1993年 3月 | 高校、定時制課程を廃止 |
| 4月 | 高校、美術科を設置 |
| 1995年12月 | 勤労動員で亡くなった教員と生徒を慰霊する「平和の碑」建立 |
| 1996年 2月 | 高校、韓国元在校生13人に半世紀ぶり特別卒業証書授与 |

| | |
|----------|--|
| 1996年 5月 | 短大、「東邦学園名東コミュニティカレッジ」開講。女性自立支援センター設置 |
| 7月 | 学園の後援組織「フレンズ・TOHO」設立 |
| 1997年 8月 | 高校、オーストラリアのサレジアン・カレッジと姉妹校提携 |
| 1999年 4月 | 高校、商業科を改組、情報、経営、グラフィックデザインの3コース設置 |
| 2001年 1月 | 大学、A棟竣工 |
| 4月 | 東邦学園大学開学、経営学部地域ビジネス学科を設置 |
| 2002年10月 | 地域ビジネス研究所(現・地域創造研究所)開設 |
| 2007年 3月 | 大学、C棟竣工、野球とサッカー専用の日進グラウンド完成 |
| 4月 | 東邦学園大学を愛知東邦大学に校名変更。人間学部(人間健康学科、子ども発達学科)を新設し2学部体制に 高校、新校舎が完成 |
| 2008年 3月 | 東邦学園短期大学が閉学、43年の歩みに幕 |
| 4月 | 高校、普通科に文理特進コース開設 |
| 2014年 4月 | 大学、教育学部子ども発達学科を開設 高校、ユネスコスクールに加盟 |
| 12月 | 大学、L棟竣工 |
| 2015年 4月 | 高校普通科を改組、新たに人間健康コースを新設して、文理特進、アクティブ、チャレンジ、サイエンスとともに5コース制に |
| 2016年 4月 | 大学、経営学部国際ビジネス学科開設 文部科学省認定の職業実践力育成プログラムで社会人を受け入れ 学生寮「TOHO Learning House」オープン |
| 2017年 3月 | 高校、商業科廃止 |
| 4月 | 大学、人間学部を人間健康学部名称変更 |
| 2018年 4月 | 大学、ブランディングに基づく諸活動をスタート |
| 2019年 4月 | 第91回選抜高校野球大会で5度目の優勝 |
| 2020年 2月 | 新型コロナウイルス感染拡大で高校、大学で警戒体制へ |
| 4月 | 高校、普通科に国際探究コースを開設 |
| 2021年 3月 | 高校、人工芝グラウンド・テニスコート完成 |

の新キャンパスには「インキュベーションセンター」を開設、起業家育成や起業支援を行う構想です。

▽学園ブランディングについて

⑥スポーツ・文化活動の強化

高校・大学それぞれの野球、サッカー、TOHOマーチングバンドを「学園のブランド」として強化します。「東邦学園地域スポーツクラブ」を一般社団法人化して、スポーツ・健康づくりの諸活動を通じて、地域社会とつながる学園の姿を作ります。

⑦東邦学園100周年PRプログラム

東邦100年の伝統や実績をアピールし、新たな100年へはばたく「広報ブランディング」を進めます。テレビ特番、オリジナル出版、特設ウェブなどのメディア企画を展開します。

▽1世紀の歴史の記録化と対外発信について

⑨記念誌の発行

100年の歩みを次代へつなぐことを目的に、学園の100年の歴史を多くの写真と年表で綴る「百年史」と、学園の歩みをエピソードで綴る「語り継ぐ東邦学園史」を編集し出版いたします。

⑩下出民義翁ドキュメンタリードラマ制作

下出民義先生の生涯と偉業を広く知ってもらい、学園の価値を高める番組の制作、動画の制作をします。

⑪記念式典・イベントの開催

更なる100年へ向けての想いの共有や外部への発信を目的に、学生・生徒と力を合わせた記念式典やイベントを開催します。また学生・生徒自身が主体的に100周年の節目に関わることのできる企画等も実施します。

主要事業投資予定額は約33億円

学園は現在、「ブランディング」を進める大学が、定員管理厳格化策も受けて入学者と在籍者が増加し、学力面の評価が上向きに転じました。高校も生徒を安定的に迎え、進路や資格取得で好実績を挙げています。一方で少子化は、コロナ禍による出生数減少によって拍車がかかっている状況です。新たな100年への歩みを進めるには、いまが基盤を築く「唯一最後の好機」と判断します。事業規模拡大と教育の質向上・多様化に向けて、大学においては「在籍者数1600人体制」の実現や大学院開設、高校においては既に実現した人工芝化や国際探究コースの学科昇格など、資金を投じてハードとソフト両面から充実を図って参ります。これらの主要事業への投資予定額は約33億円です。



100th Anniversary
はばたき 新時代へ

特集 2

100周年へ動き出す同窓会

東邦学園100周年事業支援に向けて同窓会の動きも本格化してきました。東邦商業学校時代も含め5万人近い卒業生を擁する東邦高校では東邦会が2023年6月10日にマリOTTアソシアホテルでの「100周年記念式典」開催を公表し、着々と準備を進めています。東邦学園短期大学と愛知東邦大学の同窓会組織である邦友会も100周年に向けた準備体制づくりを本格化させようとしています。東邦会の大河哲男会長、邦友会の戸谷正行会長にそれぞれ抱負を語っていただきました。

卒業生の皆さんに母校を振り返ってもらう100周年に



大河 哲男 会長

東邦会会長

大河 哲男さん

(東邦高校1978年卒)

学園100周年を前にした2021年5月、東邦会の第11代会長に就任しました。榊直樹理事長が東邦高校の校長時代に、私の長男も東邦高校にお世話になった関係でPTA副会長、会長を務めたのが縁で、その後、東邦会でも監事、副会長の仕事をさせていただきました。親子2代で東邦にお世話になったこともあり、東邦との関わりは長くなりましたが、100周年を前にしての会長就任は、身に余る大役だと思っています。東邦会の役割としては、100周年という節目に、卒業生の皆さんに母校を振り返っていた

き、母校の発展のために協力していただく舞台を提供し盛り上げていくことではないかと考えています。

すでに「東邦会」ホームページ上では、1200人参加予定での、「100周年記念式典」を2023年6月10日(土)にマリOTTアソシアホテルで開催するとのご案内をアップしています。正式な参加申し込み受け付けはこれからですが、一人でも多くの卒業生の皆さんに集まっていただくため、「この日は空けておいてください」というお願いの意味もあります。

今後、ホームページでの出席確認、参加費の手続きを進めていく予定ですが、「ホームページ



東邦商業第1回卒業生(1928年)

短大・大学卒業生一丸で100周年事業盛り上げたい



戸谷 正行 会長

邦友会会長

戸谷 正行さん

(東邦学園短期大学10回生)

東邦学園が100周年を迎えることを心より誇りに思います。

東邦学園短期大学、愛知東邦大学(東邦学園大学時代を含む)の同窓会組織である邦友会が活動を始めたのは短大1回生が卒業した1967(昭和42)年からですか

ら2022年で55年になります。大学に歴史を引き継いだ短大は1965年の開学から2008年の閉学まで43年で1万2570人の卒業生を送り出しました。2001年に開学した大学の歴史はやっと20年を超えたばかりですが、4000



東邦学園短大と合同で行われた東邦学園大学第1回入学式(2001年)

人近い卒業生が巣立っていきました。

私は1997(平成9)年から邦友会会長をさせていただいていますが、総会は

は苦手だが、ぜひ出席にしておいてくれよ」と声を寄せてくださる大先輩OBもいます。100周年記念式典は一人でも多くの卒業生の皆さんが参加する大同窓会を目指しています。東邦学園の新たな100年に向けての募金活動の輪を広げる機会にもしたいと考えており、母校愛にあふれる実行委員を募集していく方針です。

東邦学園の100年の歴史で誇りに思うのは「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という建学の精神が活かされていることだと思います。いろんな分野で活躍している卒業生たちがたくさんいますが、それぞれが自然に身に

着いた建学の精神で頑張っているのだと思います。私が経営している会社はマンパワーに頼る仕事が多いため、「真に信頼して事を任せうる人材」が欲しくてしょうがありません。



男女共学3年目の入学案内(1988年)

甲子園を沸かせる白いユニホームにTOHOの文字は東邦のブランドになっていますが、東邦は自由でさわやかなイメージで発展してきたと思います。さらに、自由というか、個性をすごく生かしてくれる学校だと思ってきました。みんな伸び伸びとやってきた。勉強する子は勉強するし、クラブ活動はクラブ活動で頑張る。主体性を持って行動している生徒が多いと思います。

発足当時から5年ごとに開催されています。2016年9月に開催した第10回総会は設立50年祝賀会も兼ねて行われました。九州など遠方から駆け付けた短大卒業生たちのほか、大学卒業生の皆さんにも参加していただき、出来上がった愛知東邦大学校歌も紹介されるなど、一緒に参加した家族も交えて盛会でした。しかし、学園100周年を見据えた邦友会活動に本格的に取り組もうとしていた矢先、2021年開催予定だった第11回総会は、コロナ禍で中止を余儀なくされました。残念ながら、邦友会として学園100周年事業にどう取り組むかについてはまだ議論が進んでいないのが現状です。

100周年までに残された時間はわずかです。高校同窓会組織である東邦会とともに、学園卒業生一丸となって100周年事業を盛り上げる体制を早急に整えていかなければと思っています。そのためにも、エネル

改めて、100周年事業での東邦会の役割は、100周年だということを卒業生の皆さんにお知らせして、認識していただき、母校を



30年ぶり5回目優勝の第91回選抜高校野球大会(2019年)

振り返っていただくことだと思います。その中で東邦学園が新たな100年に向けて、こういう風に動いていますということを知っていただき、学園の発展に協力していただく気運を盛り上げていくことだと思います。

100周年事業を盛り上げていくためには、デジタル時代ですから、ホームページ上からの発信力は大きいと思いますが、東邦会の各支部を回ったり、クラブのOBOG会を回ったり、足を使っただけの呼びかけも大事です。一方ではデジタル世代の若い卒業生の皆さんに呼びかけ、一方では足を使ったアナログ的な人間関係も大事にした両面で攻めて行こうと思います。

大河 哲男さん

東邦高校29回生(1978年卒)。株式会社カワタ金属社長、名豊重車輛株式会社社長。長男も東邦高卒(62回生)で、2008、2009年度にPTA副会長、2010年度に会長も歴任。その縁で東邦会役員も塩澤敬明会長時代から監事、副会長を歴任し2021年から第11代会長に就任。中央学院大学商学部卒。硬式野球部の森田泰弘前監督らと同級生。名古屋市瑞穂区。



短大最後の卒業式を伝える「東邦キャンパス」(2008年)

ギッシュで若い大学卒業生の皆さんに積極的に参加していただき、短大卒業生の皆さんとともに邦友会活動を盛り上げていただけることを切に願っております。

戸谷 正行さん

1974年に東邦短大商業科入学。短大時代は学生会会長、大学祭実行委員長も務め、1975年の第11回東邦短大祭運営を1年生も巻き込んで盛り上げました。邦友会活動では初代会長の長尾博徳さん(1回生)、2代目会長の舟橋勝博さん(4回生)からバトンを引き継ぎ1997年から3代会長に就任し25年目。卒業後は紳士服メーカー、鉄鋼メーカー勤務などを経て現在は運送会社勤務。

特集
3

「高校野球ブラバン応援の世界」 で東邦吹奏楽を語る



2019年春フロリダ遠征を終え
甲子園に乗り込んだ東邦高校マーチングバンド部

東邦学園の教育原点は情操教育と言われました。1929年に産声を上げた「健児音楽隊」（後の音楽部、マーチングバンド部、吹奏楽部）と、1930年に創部され、春夏通算47回の甲子園出場を誇る硬式野球部に代表される部活動の育成はその象徴でした。甲子園を舞台にした「東邦高校の野球とブラバン」が語られるイベントが11月、ヤマハミュージック名古屋店で開かれました。高校野球とブラバン応援の世界について詳しい梅津有希子さんと東邦高校マーチングバンド部監督白谷峰人さんの対談です。対談で取り上げられた話題の中から、甲子園応援の始まり、マーチングスタイル導入のきっかけ、大阪桐蔭高校吹奏楽部の友情応援について紹介します。



梅津 有希子さん
(高校野球ブラバン応援研究家)

北海道出身。中学校からファゴットを始め、札幌白石高校時代に全日本吹奏楽コンクールに出場。3年連続金賞を受賞。ヤマハ札幌店勤務(管弦打楽器担当)のち、FMラジオ局、編集プロダクションなどを経て独立。吹奏楽や野球応援などのテーマで執筆や講演活動をしています。「ブラバン/甲子園大研究」(文藝春秋)など著書多数。



白谷 峰人さん
(東邦高校マーチングバンド部監督)

東邦高校45回生で1993年卒。名古屋芸術大学音楽学部器楽科弦管打コース(トランペット専攻)卒業。2007年、東邦高校吹奏楽部顧問、愛知東邦大学吹奏楽団監督に就任。2018年、東邦学園のオフィシャルバンドとして愛知東邦大学と東邦高校合同の「TOHO MARCHING BAND」を結成し音楽監督に就任。

甲子園ブラバン応援の草分けだった 東邦商業音楽部

対談は11月13日、ヤマハミュージック名古屋店で開かれました。テーマは「【スポーツ×音楽】高校野球ブラバン応援の世界」。「ブラバン甲子園大研究」(文藝春秋)などの著書がある梅津さんが最初に持ち出したのは、「甲子園でのブラバン応援の先陣を切ったのは東邦商業では」という指摘でした。

梅津さんは「100年に及ぶ甲子園高校野球で、いつからブラバン応援が行われたかについて新聞など様々な資料でずっと調べてきましたが、最近になって1941(昭和16)年春の第18回全国選抜中等学校野球大会で優勝した東邦商業の音楽部応援が最初である可能性が極めて高いことが分かりました」と報告しました。

梅津さんは、東邦学園ホームページに掲載されている「語り継ぐ東邦学園史」第24回で、教員として東邦吹奏楽を長年にわたって指導し続けた稲垣信哉氏へのインタビューを紹介。東邦商業18回生(1945年卒)で音楽部員だった稲垣さんは「僕が入学した翌年の大会(第18回大会)には音楽部も応援に行きました。野球部員とも仲はよかった。甲子園出場校で吹奏楽応援が行われたのは東邦が最初ではなかったかな。多分そうです。30人くらいは行ったと思います。今のようなバトンやチアガールと一緒に華やかなものではなく、校歌や応援歌を演奏するだけでした」と回顧しています。

戦時体制が緊迫化するなか、1941年夏以降の甲子園大会は中止となり、春の第18回大会は戦前最後の大会となりました。

東邦商業音楽部は稲垣さんが入学した1940(昭和15)

年の第1回全日本吹奏楽コンクール(大阪朝日会館)に東海地区代表として出場し2位。第2回(1941年、名古屋市公会堂)、第3回(1942年、九州福岡中学校)で優勝に輝きました。東邦吹奏楽は野球同様、黄金期にありました。しかし、甲子園大会同様、同コンクールも1943年からは戦争のため中止となりました。

動きながら演奏するマーチングスタイルの原点

梅津さんは甲子園での東邦高校の応援スタイルについて「よく動きますね。何故なんですか」と白谷さんに質問しました。白谷さんは譜面を暗記してしまうことで、譜面台を置くスペース分が広がったことをその理由に挙げました。

「今は甲子園球場そばの高架下までバスが行けますが、僕が東邦高校1年生だった1991年当時は浜甲子園と言って、数キロ離れたところに停車して、楽器も荷物も全部持って15分ほど歩いて球場に移動しなければなりません。1年生は先輩の荷物を持たなければならず、両手に楽器を持って、譜面台を背負って、楽譜を抱いて移動しなければならない。スタンドでは、譜面台が風で倒れたりする。僕は先輩の譜面台をバスに忘れてしまいました。恐ろしくて言えず、自分の譜面台を先輩の所に立てて、自分は楽譜なしで苦勞した経験もあります」。

白谷さんが1年生だった1991年、東邦高校は春に続いて夏も甲子園に出場しましたが、いずれも1回戦で敗退。しかし、2年生夏の1992年第74回選手権大会では倉敷商業(岡山)、県岐阜商業(岐阜)、天理(奈良)を破って勝ち進み準決勝で西日本短大付属(福岡)に敗れました。楽譜や譜面台を抱えての東邦の球場入りは4回に及びました。

吹奏楽部を指揮するようになった白谷さんが、楽譜や譜面台の持ち込みを止めたのは2014年夏、6年ぶり16回目出場となった第96回選手権大会からでした。「譜面を全部暗記してしまえば、譜面、譜面台を持ち運ばなくてもいい。目の前に譜面台分のスペースが出来た分、これは有効に使わなければならない、そこで生まれたのが移動したり、飛び上がったりしてのアクティブな演奏スタイルでした」。

第96回選手権大会で東邦高校は1回戦で日南学園(宮崎)に11-3で勝利。2回戦で、日本文理(新潟)に2-3で敗れましたが、東邦側応援スタンドではアクティブな応援演奏スタイルが続きました。

梅津さんは、「発想が面白いですね。それでもあそこまで跳んだり、足を蹴ったりとかして、生徒もよくあそこまで体力があります」と感心しきりでした。

大阪桐蔭高校吹奏楽部とのコラボ応援で5回目全国優勝

東邦高校は2019(平成31)年春の第91回選抜大会で、1989(平成元)年以来30年ぶりの全国優勝に輝きました。大会ではフロリダ遠征中の東邦高校マーチングバンド部に代わって大阪桐蔭吹奏楽部の友情応援が話題になりました。白谷さんと梅津さんのトークです。

白谷 東邦は2年前の2017年に、2019年の春休みを利用して、フロリダに演奏旅行に行こうという計画を立てていました。もちろん春の甲子園がある時期だということは知っていました。甲子園出場はそう簡単なものではないし、日程的に重なってもギリギリ決勝戦には間に合うと学校側には説明していました。ところが東邦の甲子園出場が決まり、愛知県内の学校に甲子園友情応援を打診しましたが難しく、梅津さんに相談しました。

梅津 白谷さんから、「実は応援に行けないんです」と相談を受けました。心当たりの学校を何校か当たりましたが、どこまで勝ち進めるか分からず、確実な日程確保が難しいため話がまとまりませんでした。大阪桐蔭のような全日本吹奏楽コンクールで金賞を取るような学校に友情応援を頼んでいいのかなと思いましたが、吹奏楽部総監督の梅田隆司先生に快く引き受けていただいたんです。野球部の監督さんも部長さんも「東邦さんには練習試合でもお世話になっているし、ぜひ応援してあげてください」と快諾してくれました。日程が全部空いているというのも奇跡的でした。

白谷 フロリダ出発前の合同練習では生徒同士で教え合って練習しましたが、振付などすぐ覚えてもらえました。帰国して準決勝から応援に加わりましたが、一緒に演奏していて何の違和感もない。校旗掲揚では、大阪桐蔭の部員たちが校歌を歌ってくれているんです。すごいなあと思い、感動しました。ここまでやってくれるかと。最初は「ウイーアートーホー」もやってくれるかなと思っていたのに校歌まで一緒に歌ってくれる。本当に感動しました。



友情応援で甲子園に乗り込んだ大阪桐蔭高校吹奏楽部の専用車

Ⅱ 高校／行事・クラブ活動

新型コロナウイルス感染リスク低減へ時差、分散登校を実施

教頭 大上 雄示

東邦高校では12月現在、新型コロナウイルスの猛威は落ち着きを見せております。しかし、夏休み終盤の状況は愛知県でも半月以上新規感染者が連日1000人を超える状況となっており9月30日まで緊急事態宣言が発出されておりました。

東邦高校といたしましては、この状況を受けて、感染予防・拡大防止対策のより一層の徹底が必要と考え、1学期から実施しておりました登校時間を30分遅らせる時差出校に加えて、1、2年生のみ、出席番号の奇数と偶数に分けて分散登校を実施いたしました。出校人数・教室内の人数を減らすことで感染リスクを低減すると同時に、生徒の皆さんの不安、保護者の皆様の

ご負担・ご心労を少しでも軽減できたのではないかと考えます。

今後も最新情報を収集しながら安全・安心な学校生活が送れるよう学園一丸となって対応していきます。



「百花協心」をテーマに学園祭を学年別開催

生徒会正顧問 水谷 陽子



今年度は、緊急事態宣言が発令された影響で、3年生は「文化的レクリエーション」と名前を変え、当初の予定通り9月24日(金)に、1・2年生は10月28日(木)に学年別に文化祭を開催しました。また、体育祭は緊急事態宣言が明け、分散登校が終了した直後である10月1日(金)に学年別で行いました。

今年度の学園祭テーマは「百花協心」です。自分の個性や才能を花に見立て、開花させながら、心を合わせて協力しようという意味が込められています。そのテーマにふさわしく、準備期間や片付け時間が短い中でも、各クラス工夫を凝らした企画がたくさん出てきたのは喜ばしいことでした。トロッコなど大型の制作物にも果敢に挑戦したクラスもありました。エネルギー溢れるライブペインティングも盛り上がりました。

クラブや有志企画は動画での発表となり、動画編集の技術の高さに、生徒たちの表現の新たな可能性を感じました。PTA企画である、バルーンアートのフォトスポットも盛況でした。

今年度の本部企画では、多様化する世の中で「個性あふれる表現の自由」「LGBTへの関心や、それを否定しない事」を目標に掲げ、ジェンダーレスをテーマにしたファッションショーを開催しました。私服・制服部門に分けて行いましたが、私服は、事前に生徒たちに呼びかけ、集めたものを使用し、その服は、すべて公的な団体へ寄付しました。

模擬店・バザーなどは行われませんでした。クラス費の残りは、子どもの食支援を行うチャリティー募金や、沖縄の軽石を除去する団体への寄付にあてられました。また、沖縄ひめゆり祈念資料館への平和カンパは、2年生の修学旅行団が募金を届ける予定でしたが、旅行の中止に伴い、送金する形をとらせていただきます。

最後になりますが、2021年度学園祭を、例年とは違う形ではありますが開催できたことをまず評価し、ご協力いただきました方々には、改めて感謝申し上げます。次年度以降は、コロナが収束し、例年に近い形での開催ができることを願います。

捕鯨問題を考える和歌山研修を実施

国際探究コース

国際探究コースの1年生は、世界遺産を通して世界

1月 始業式、面接週間、PTA委員会、学年末考査(3年)、実力考査(1、2年)

2月 修学旅行(人間健康コース)、予餞会

3月 卒業式、学年末考査(1、2年)、終業式

※今後、コロナウイルス等の影響により変更になる可能性があります。



鯨骨の鳥居で有名な太地町の恵比寿神社

がどのように動いているのかを知り、2年生では、グローバルな課題を1つ設定して、その問題を深く掘り下げる授業を行っています。今年度は「捕鯨」をテーマとして、その複雑な問題に向き合っています。今年度、8月4日から5日にかけて

行った和歌山研修では、捕鯨の町として有名な太地町を訪問し、「太地の人々がどのように海と向き合って生きてきたのか」をテーマに歴史的なことを中心にして学習してきました。くじらの博物館を訪問したり、梶取崎(かんどりざき)や潮岬など、鯨類と関係の深い海を見学してきました。

伺ったお話からは、移民や差別、宗教の話題にまで広がり、捕鯨問題は、簡単に解決につながる問題ではないことを実感しました。参加した生徒の一人は、「知れば知るほど面白くなったし、知れば知るほどわからなくなりました。これからもう少し整理して鯨の問題に向き合いたい」などと話していました。

卒業制作展「未来の芸術家たち展」を終えて

美術科教科主任 小塚 康成

第29回卒業制作展「未来の芸術家たち展」が10月26日から31日まで名古屋・栄の愛知県美術館で開催されました。会期中6日間で1735人の来場者があり、近年で



は最も多い入場者数を記録しました。

コロナによる活動の制約に屈することなく、長い期間をかけ、真正面からじっくりと向き合った大作の数々は、来場者の心を揺さぶったに違いないと感じています。卒業制作は、美術科における3年間の集大成であり、これからの原点となる作品です。この経験が生徒一人ひとりの糧となり、将来に向けて力強く羽ばたいていくことを願っています。

最後に、ご来場いただきました保護者の皆様、学校関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

「管楽」全国大会出場

吹奏楽部顧問 古野 達也

新型コロナウイルス感染症により、感染予防対策をしつつ、限られた時間の中で部員たちは自分の音と向き合い、演奏技術、表現力の向上に努めています。2020年度はほとんどのコンクールや演奏会が中止となりましたが、2021年度は様々な制限がある中での開催となりました。11月6日、日本管楽合奏コンテスト全国大会も動画審査・動画配信で開催され、ステージで



演奏できなかったことは残念ですが、動画配信により日本各地の方々に、日頃の練習の成果を披露することができました。私たちの音楽を感じて頂けたことを部員ともども嬉しく思っております。部員たちの日々の努力と音楽に向かう真摯な姿、そして我々の活動を支え励まし応援して下さる多くの皆様に心より感謝申し上げます。

全国選抜大会 愛知県予選を終えて

剣道部監督 山下 峻平

剣道部にとっての全国三大大会〈インターハイ・玉竜旗・全国選抜〉の一つ、全国選抜大会の愛知県予選が11月の1か月間を用いて開催されました。私たちは〈愛知県制覇〉を目標に掲げ、インターハイ予選後から全国選抜予選に照準を合わせてきました。月日を重ねるうちに成長していく部員の姿は遅しく思えるほどで、県外の上位校とも互角以上の戦いを行うことができるようになりました。



その後、個人・団体共に地区予選では順当に勝ち上がり、県大会へと駒を進めることができました。しかし、県大会では個人ベスト8入賞2名、団体ではベスト16と僅差での敗北を喫してしまいました。この悔しさを糧にして、インターハイ予選で目標を達成できるよう精進していきたいと思います。

応援いただきました皆様に感謝を申し上げるとともに、引き続き応援のほど宜しくお願い致します。

水泳部 「今シーズンを振り返って」

監督 山田 琴絵

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、主要大会が中止になるなど苦しい1年になりました。そんな中でも選手たちはモチベーションを失うことなく



練習に励み、目標に向けて努力をしてきました。しかし、今シーズンは惜しくもインターハイへの出場権を獲得することが出来ませんでした。先輩方が築き上げてきたインターハイへの連続出場記録は途絶えてしまいましたが、この悔しさを忘れることなく来シーズンに向けて練習を重ねていきたいと思います。

また、トライアスロンの競技では3年生の平泉真心が第23回日本U19トライアスロン選手権にて2位に入賞しました。大学進学後も更なる目標に向けて挑戦します。

今後も変わらぬご声援よろしくお願ひ致します。

悔しさをバネに繋いだ夢

ダンス部顧問 伊藤 恵子

ダンスドリルでは毎回HIPHOPとLYRICAL各チームに分かれて大会へチャレンジしています。2021年の夏、HIPHOPメンバーは全国大会出場を夢を叶えて大阪で思いっきり踊りました。LYRICALメンバーは、コロナ禍で応援に行くことも出来ず、悔しい想いで名古屋に残り、秋に向けスタートしていました。

秋季東海大会で念願の全国大会出場権を手にしたのは、LYRICALメンバーでした。また各地区大会終了後、協会より連絡があり、男子HIPHOPも追加枠にて出場権をいただけることになりました。本人たちの頑張りはもちろんですが、周りで支えて下さった方々、何度も足を運んでアドバイスを熱心にしてくれたOBやOGに感謝です。

1月15、16日、武蔵野の森総合スポーツプラザ(東京都調布市)で、一番輝ける自分たちを観ていただけよう頑張ると思いますので、引き続き応援よろしくお願ひいたします。



大学／行事・クラブ活動

ウィズコロナ実現に向けた愛知東邦大学の取り組み

大学事務局長 長沼 英樹

本学のコロナウイルス感染症拡大防止ガイドラインでは「感染者を出さない」ではなく、「濃厚接触者(クラスター)を出さない」ための対策を講じています。

誰もが感染する可能性のある新型コロナウイルスに対して「感染者を出さないための取り組み」には限界があります。そのため本学が目指すべき防止対策は、大学の責任として、濃厚接触者を最小限にとどめること、感染者が出た場合のスムーズな対応ができることに焦点をあてて対策を講じることにしています。

他方、ワクチン接種(大学拠点接種)では計画していたものの国からのワクチン供給が延期になったことから、やむを得ず学内拠点接種を断念し、代わりに地域

の医療機関と連携し学生のワクチン接種を促進しました。

2022年は「オミクロン株」の急拡大という第6波に見舞われての年明けとなりました。こうした中であっても学生と教職員に求められる最も重要な姿勢「自ら感染しない」「他人に感染させない」環境を守ることと、大学の授業を生き生きと展開し、学生同士が集える機会を何とか確保することを同時に実現したいと思っています。安全対策を最優先しながら授業が原則対面で開講できることを願ってやみません。

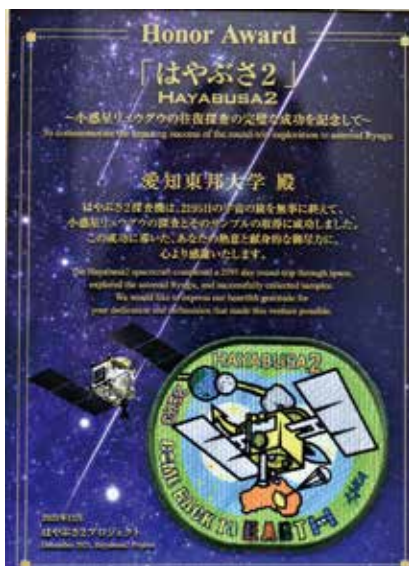
「はやぶさ2」プロジェクトで愛知東邦大学と高木教授に感謝状

小惑星リュウグウを探査し、2020年12月、予定を大幅に上回るサンプルを地球に持ち帰った「はやぶさ2」プロジェクト協力に対する感謝状が、2021年12月20日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)から愛知東邦大学と経営学部地域ビジネス学科の高木靖彦教授に届きました。

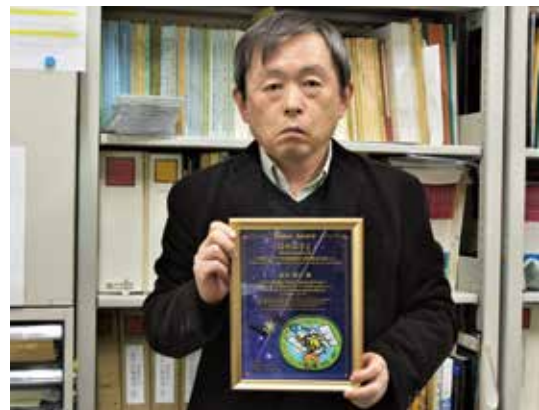
いずれの感謝状にも「はやぶさ2探査機は、2195日の宇宙の旅を無事に終えて、小惑星リュウグウの探査とそのサンプルの取得に成功しました。この成功に際して、あなた方の熱意と献身的な協力が、心より感謝いたします。

いた、あなたの熱意と献身的なご尽力に心より感謝します」と、和文と英文で「はやぶさプロジェクト」からの感謝のメッセージが書かれています。

高木教授への感謝状は「はやぶさ」計画でのサンプル採集装置の初期の開発に関わった功績によるものです。「はやぶさ」初号機は2003年5月に小惑星「イトカワ」を目指して打ち上げられましたが、高木教授と「はやぶさ」との関わりはこれ以前から始まりました。高木教授は「25年に及ぶはやぶさとの関わりが一区切りついた思いです」と話しています。大学に届いた感謝状はH棟事務室入口ディスプレイに掲示されています。



大学に届いたJAXAからの感謝状



届いた感謝状を手にする高木教授

卒業生が現役を上回る成果 2021年度の教員採用試験 大学院にも4人

教職支援センター長 辻 正人

全国的傾向として、教員のなり手が減り、倍率低下の状況ではありますが、集中した対策が必要なことに変わりはありません。本学は教職分野を目指す学生向けに、正課以外に「東邦STEP」と特別講座を開設し、人間健康と教育両学部も独自の活動を行っています。その中で教職支援センターは特別講座や相談活動等を通じて、学生の夢実現を使命とし、学校現場を肌で体験できる機会等を提供しています。全学的な取り組みの結果、現役4人、卒業生5人が合格。大学院へ4人、特別支援教育特別専攻科に3人が合格し、これまでにない実績を上げてくれました。また公立の保育士に2人が合格しました。

2021年度教員採用試験等の結果

現役合格の4人(昨年度7人)はいずれも小学校教員で、愛知県・広島県・千葉県・北海道各1人です。4人のうち、東邦STEPと特別講座の受講者が3人、東邦STEPのみが1人で、東邦STEPと特別講座の両方受講した学生の合格率が高くなっています。

卒業生の合格者5人は、愛知県・小学校3人、名古屋市・小学校1人、岐阜県・中学校1人でした。5人は中高教職課程出身で、小学校教員合格の4人は、講師を務めながら通信教育で小学校教員2種免許を取得したうえでの受験でした。この内2人は、教職支援センター主催の講師対象特別講座を受講していました。

大学院は愛知県立大、愛知教育大、兵庫教育大、常葉大学に各1人、愛知教育大学の特別支援教育特別専攻科(修業年限1年)に3人の合格です。この専攻科への志願は、教員が学生に特別支援教育の様子を見る機会を設けたことが動機付けになったそうです。

公立保育士は、清須市と鈴鹿市に各1人が採用試験に合格しました。

2022年度受験に向けた今後の充実策

特別講座としては、幼児教育コース、初等教育・中高教職課程コースを設定しています。

初等教育・中高教職課程コースの学生は、知識の習得状況を知り、自らの課題を明確にするために、教職支援センター主催で東京アカデミーの公開模擬試験に参加しています。この模擬試験を通して、一般教養・専門教科に課題があり、一般教養を重点とする指導、専門教科への補強の必要性が明確になりました。

2022年度受験に向けては、教職教養や面接・論文指導など「繰り返しの学びの徹底」を図るとともに、TACの特別講座では一般教養に重点をシフトすること、専門性が問われる保健体育については、2・3年生を対象に新たに保健体育特別講座を設定していくとしています。今後も、学生のモチベーションを高めていくために、さらなる充実策を検討していきます。



教職特別講座で2022年度教員採用試験を目指す3年生たち

1月 後期講義終了、後期末試験

2月 後期末試験、卒業研究発表会、
春期休暇(2/4~3/31)

3月 卒業証書授与式

※今後、コロナウイルス等の影響により変更になる可能性があります。

「売木人財発掘・学び合い」テーマに 売木村で参加型円卓会議

経営学部准教授 今瀬 政司

長野県売木村の人材育成・地域活性化と本学の教育・地域貢献を目的にして、2021年度「売木村・愛知東邦大学 学び合い協働事業」に取り組んでいます。4月から7月にかけて、売木村寄付講座「地域振興論」を開講して、同村で地域振興に取り組む清水秀樹村長ら12人が今瀬とともに実践的な講義を行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で途中から遠隔講義になりましたが、売木村講師の方々は熱く優しく温かく学生たちに語りかけて下さいました。学生たちは地域振興の知識・実践とその大事さを学び、売木村活性化への様々な提案を行うと共に、自らの生き方や働き方を考えるきっかけも得ました。



学生6人が加わった円卓会議

11月20日には、「学び合い協働事業 公開イベント in 売木村」を同村文化交流センター「ぶなの木」で開催しました。同村と本学の交流の歴史は、1983年に売木山荘が開設されて以来38年前に遡ります。その長きにわたる歴史を踏まえて、TOHO MARCHING BANDの演奏のもと、「包括連携協定締結式」を行いました。締結式に続いて、「愛知東邦大学公開講座 in 売木村」を開講して、今瀬が「全国各地の災害避難・救援の教訓からの学び」をテーマに村民向け講義を行いました。その後、「売木村創生シンポジウム」を開催して、「売木人財発掘・学び合い」をテーマに参加型円卓会議(ディスカッション)を約2時間にわたり行いました。

参加型円卓会議では、コーディネーターの今瀬のもと、最初に「地域振興論」で講師を担当した方々が売木村における地域の人財育ての実情と課題等について問題提起を行いました。その問題提起に対して、同村から清水村長、役場職員、議会の後藤和彦議長、議員、村民の方々、本学から鷓飼裕之学長、榎直樹理事長、学生6人が熱く意見を交わしました。売木村は移住者を温かく迎える人々の風土があり、村民約550人の3人に1人は移住者で、うち愛知県出身者が半数弱を占めています。売木村の一層の発展のためには、現住者と移住者が学び合い、協働して次代の売木村を創生していくことが必要だとして様々な議論が展開され、学生たちも建設的な意見・提案を行いました。

「地域振興論」の受講学生からは「自分たちが今回売木村を訪れて交流したようなバスツアーを増やしたらいい」、以前にも同村を訪れた学生からは「売木村では縦横の温かい人のつながりを感じます」「売木村の小中学生やお年寄りの方々と本学のマーチングバンドで合同演奏のイベントができたらいいい」「売木村ならではのブランドをもっと出せたらいい」、初めて同村を訪れた学生からは「ゆっくり時間をかけて協力し合えれば」「年齢に関係なく子どもも遊べるようにしては」などの発言がありました。

最後に、村長・村議会議長と学長・理事長それぞれから、これからも売木村と本学のさらなる学び合いの取り組みを期待したい旨などの挨拶があり、シンポジウムは閉会しました。事業の詳細は、今瀬研究室ホームページ(http://sicnpo.jp/imase-aichi_toho/)に掲載しています。



長野県阿南町と包括連携協定を締結

愛知東邦大学と長野県阿南町との包括連携協定締結式が10月1日、学内で行われ、鵜飼裕之学長と勝野一成町長が協定書に署名し包括連携協定がスタートしました。愛知東邦大学が県外の自治体と包括連携協定を結ぶのは2016年の沖縄県読谷村に次いで2例目。読谷村と同様に、相互に協力し、地域社会の発展と人材育成、学術振興への寄与、特に阿南町出身学生の故郷でのインターンシップ「Uターンシップ」を通しての地域発展への貢献を目指します。阿南町は下伊那郡南部に位置し、西は売木村など、南は愛知県豊根村などと接し人口4347人(10月1日現在)。「南信州祭り街道の里」を掲げ、自然豊かな町をPRしています。



3 学部連携による知育玩具プロジェクト

経営学部講師 榎澤 祐一

「3学部連携の知育玩具プロジェクト」とは、幼児向け知育玩具「ジナゾル」について経営(マーケティング、デザイン)、幼児教育、神経生理心理学、脳神経科学の側面から、



前列左から経営学部・井上和奏、三浦千奈。後列左から大平様、榎澤、谷口准教授

同玩具の製造・販売元である株式会社ジナゾル様(名東区・代表取締役 大平里香)と産学連携での教育や研究を展開し、「ジナゾル」の更なる普及を目指す

プロジェクトです。2021年度は、プロジェクト型授業として経営学部の谷口正博准教授の「東邦プロジェクト」や私の「専門プロジェクト」で、同社のマーケティング支援を検討しました。

本プロジェクトは、私自身の就学先の大学院の講義で、知財経営に関するゲスト講師としてお越し下さっ

た株式会社ジナゾル代表の大平様のお話を2020年に聴講したのがきっかけでした。本学に2021年4月に着任した直後から、産学連携センター運営委員会の委員に就任したことや、自分自身の担当ゼミで産学連携の可能性はないかと考えたことをきっかけに、いくつかの企業を伺っておりまして。その中で、ふと思い出し連絡を取ったのが大平様でした。



大平様から知育玩具「ジナゾル」。文字が刻印されたパズルの玩具で、「字をなぞる」という商品の特徴から名付けられました

の製品として

の魅力だけでなく、その背景にあるSDGsの観点についてお話を伺いました。例えば、「ジナゾル」は、その時まで木で出来ていると思っていましたが、牛乳パック由来の再生紙で出来ており、その生産にはご尊父様が経営する工場の匠の技を生かして切断加工されていること、障害のあるご子息の教育をきっかけに「ジナゾル」を発想し、育児との両立の中でビジネスを運営されていることを伺いました。また、教育や脳神経科学へのご関心があることも伺いました。その後、産学連携センター運営委員会で、同社とのコラボレーションについて話し合い、3学部連携活動の可能性が大きいとの結論に至ったため、人間健康学部・橋教授にもご賛同を頂き、連携活動を行うことになりました。

谷口准教授による前期「東邦プロジェクト」では、「ジナゾル」の遊び方を学生が考え、それを自発的にYouTubeで展開することを目的とした動画を作成し、大平様に提案しました。また、その模様は、豊田市のケーブルテレビ局「ひまわりネットワーク」の「ダイガクモン」で放送されました。

そして後期では提案の具体的な展開を目指すため、私の「専門プロジェクト」との合同講義を開催(10月28日、11月25日、12月23日)し、商品パッケージ



のYouTubeチャンネル開設を目指した動画の提案を行っています。合同講義で両プロジェ

学生考案による「ジナゾル」を用いたパズル

クトの履修学生同士がディスカッションを行う中、新たなアイデアのヒントを学生たちは得ているようです。2022年度は経営学部では今年度行った試みを深化し、広げていくとともに、人間健康学部や教育学部と連携した計画もスタートできるよう、微力ながら尽力してまいりたいと考えております。

JAFスタンプラリーコンテストで3人優秀賞 国内旅行業務取扱管理者試験に2人合格

経営学部教授 宮本 佳範

2021年度も、経営学部地域ビジネス学科観光・サー



ビスコースの学生たちが様々な活躍してくれました。

まず、3年生の中間彩音

さん、仲林奈緒さん、大場由理さんは、3人の名前前の頭文字を並べたチーム「any」を結成し、「あいち学生ドライブスタンプラリーコンテスト2021」に応募し、優秀賞を受賞しました。このコンテストは、JAF(一般社団法人日本自動車連盟)愛知支部が主催しており、最優秀賞となった提案をJAFの「ドライブスタンプラリー」として実施するというものです。

チームanyは、子どものいる家族連れをターゲットとし、「家族で作る3楽ドライブ～思い出に残る南知多・常滑巡り～」というタイトルの企画を提案しました(「3楽」=「見て楽しむ」「食べて楽しむ」「体験して楽しむ」の意味)。そして、様々な大学から多くの応募があった中、最終審査会に進む5チームに選ばれました。

コロナ禍ということもあり動画発表形式で行われた最終審査会では、最優秀賞は逃したものの優秀賞をいただくことができました。後日、入賞チームへのインタビューがFM愛知の生放送番組「DAY DREAM MAGIC」で紹介されることになり、チームanyからは中間さんが代表で電話インタビューの形でラジオに出演しました。

また学生2人が「国内旅行業務取扱管理者試験」に合格しました。合格したのは大場由理さん(3年)と江原帆南さん(2年)。国内旅行業務取扱管理者は、旅行業法や旅行業約款、旅行実務等に関する専門的知識を有する者に与えられる国家資格で、法律で国内旅行を

企画・販売する営業所に必ず配置することが定められています。資格を得るための国内旅行業



務取扱管理者試験は、大学生や専門学校生はもちろん、旅行業で働く者も多く受験する旅行関連の難関国家試験です。地域ビジネス学科では国内旅行業務取扱管理者試験に対応した科目が開講されており、2人はその授業を中心に勉強してきました。

合格した大場さんは、「観光・サービスコースがあるからこの大学に入り、旅行業界への就職を目指し、国家資格をとろうと頑張ってきました。合格できてうれしいです」と、江原さんは、「試験の直前にコロナワクチンを接種し、勉強できない期間がありました合格できてよかったです」と喜びの声を聞かせてくれました。

経営学部では2021年度入学生からはコース制が廃止されたため、観光を学びたいという学生が今後減少することが予想されますが、これからも観光に興味を持つ学生たちを応援していきたいと思います。

後藤前教育学部長に名誉教授称号を授与

愛知東邦大学は9月1日、後藤永子前教育学部長に名誉教授称号記を授与しました。名誉教授規程(学部長などとして教育上又は研究上、特に功績があった場合)によるもので、名誉教授の誕生は東邦学園短期大学時代の7人を含め15人目です。

後藤氏は2000年に名古屋女子大学大学院博士課程単位取得満期退学。2007年に愛知東邦大学人間学部子ども発達学科教授に就任。同学科長を経て教育学部が開設された2015年4月から学部長補佐などを歴任し、2018年4月から2020年3月まで教育学部長を務めました。



足腰の強い最強チームへ

硬式野球部監督 田中 洋

日頃より大学硬式野球部へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。



2021年度は「1部昇格・明治神宮大会出場」を目標に臨みましたが、新型コロナウイルスの影響で春・秋のリーグ戦共に入替戦が中止になってしまいました。また、本学野球部も同ウイルス感染拡大の影響を受け出場辞退を余儀なくされ秋季リーグ戦は8試合が不戦敗、3試合のみの試合になってしまいました。本気で野球に取り組んできた4年生にとっては悔いの残る最終年となってしまいました。

2022年度は、4年生の思いを無駄にしないためにも「1部昇格・明治神宮大会出場」を目標に猛練習に励み、勝負をかけるためにチームとしての基盤を固めていきます。「挨拶をきちんとする」「時間・約束を守る」「コミュニケーションをとる」「ごみを拾う」など、人としての「基本のき」を大事にしていくことが足腰の強い最強チームになると考えています。

また、学業と部活を両立し、強化指定クラブの自覚を持ち、目標を達成するに「ふさわしい」チームにします。応援していただく全ての皆さまに力一杯のプレーでお応えいたします。

1部に昇格し再び全国舞台に立ちたい

軟式野球部マネージャー 倉地 来夢

軟式野球部は中部日本学生軟式野球2部リーグですが、2021年度はコロナ禍の措置として、10月から1、2部総当たりでの予選が行われ、上位3チームが東日本大会に行けることになりました。愛知東邦大学は2位で、11月20日から東京都八王子市で開催された第42回東日本学生軟式野球選抜大会に出場しました。同大会出場は2012年以来9年ぶり3回目でしたが、残念ながら初戦の中部学院大学戦に0-11、5回コールドで負けました。

私たち軟式野球部の2022年度の目標は、「1部昇格」

と「再び全国の舞台に立つ」です。1つ目、「1部昇格」。私たちは現在、新型コロナウイルスの影響もあり1部昇格できず2部に停滞しております。そんな私たちですが、まずは1部に上がることを目標に精進してまいります。

そして2つ目、「再び全国の舞台に立つ」。残念ながら初戦敗退してしまいましたが、選手にとってはいい経験になったと思います。練習する時間が少ない中、中部日本学生軟式野球大会秋季戦で1部リーグ所属の大学に勝ち、全国へと進めたことは大変嬉しく思います。個人個人の力もあったかと思いますが、やはりチーム力が必要だと改めて感じました。



第42回東日本学生軟式野球選抜大会出場を決めた軟式野球部激励会(11月17日)

春は1勝もできなかったチームが、秋には全国の舞台に立ちました。中部日本学生軟式野球連盟のリーグ方式にもよりますが、上記2つの目標を掲げながら、今より成長できるように頑張りたいと思います。私はこの部活唯一のマネージャーとして、精一杯選手をサポートしてまいります。

強化指定クラブ4年目 チーム一丸で2部昇格へ

女子バスケットボール部監督 山村 伸

「光陰矢の如し」。2022年は女子バスケットボール部が強化指定クラブになり4年目を迎えます。私が愛知東邦大学に着任した2018年度当初は前年度までの部員がほとんど4年生だったこともあり、選手3人でのスタートでした。

1年目は当然、大会への出場は出来ませんでしたので、部員の友人を呼んで一緒に練習したり、男子バスケットボール部と合同で練習したりしながら継続させていく事がやっとでした。その様な状況でも部活を辞めずに最後まで残ってくれた当時の部員には今でも感謝しています。その後は徐々に部員数も増え(3人→7人→13人)、2022年は新入生7人を迎え、20人程度での活動となります。

強化指定クラブとしての大学からのサポート、2021

年度から部長を引き受けて下さった人間健康学部の尚先生、学生・キャリア支援課の柴田さんをはじめ教職員の皆様のご協力には大変感謝しております。徐々にではありますが女子バスケットボール部は着実に力をつけてきています。2022年度は強化指定クラブ4年目(完成年度)となり、結果が求められる時期だと考えております。昨年、もう少しの所で叶わなかった「2部昇格」の目標に向けてチーム一丸となって取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願い致します。We can do it!!

2年連続で逃したインカレ出場

教育学部子ども発達学科3年 瀨瀬 みつき

2021年度は日本一を目標に掲げ、日々練習をしてきました。昨年度、インカレ本戦出場を逃したため、悔しさをバネにチーム一丸となり戦いました。しかし、今年度もインカレ予選で敗退し、本戦に出場することは出来ませんでした。

2年連続インカレ本戦に行けなかった結果を受け止め、本戦に出場するためには何をすべきなのか、チームで考える必要があると思います。これまでと同じ取り組みをしても結果は出ないと思います。チームとして変わるために、一人ひとりの日々のサッカーへの取り組み意識を上げていきます。日本一をめざすからこそ、練習試合や公式戦などの目の前の試合で結果を出すことにこだわっていきたくです。2022年度も変わらず、温かい応援の声とご支援の程、よろしくお願い致します。

サッカーを通じ人間性を高め、前向きに努力する姿勢を培いたい

東邦学園サッカー部総監督 石渡 靖之

男子サッカー部は、4月から元名古屋グランパスエイト選手・コーチを務めた氏原良二氏を監督に迎え、新チームをスタートしました。



コロナウイルスのまん延による度重なる練習中断ならびに東海学生サッカーリーグ戦の日程短縮で、選手のコンディショニング維持及びチームのコンセプトの確立に苦勞した1年でした。今年度の東海学生サッ

カーリーグ2部では、選手は、4年生を中心に大変頑張りましたが、今一步及ばず、最終的に6勝1分け2敗の3位で終わりました。

11月20日のリーグ最終戦終了後、チームは新体制となり、チーム目標である東海学生サッカーリーグ1部昇格を目指し、日々練習に取り組んでおります。しかしながら、私としては、チームの目標達成以上に重要視しているのが、学生がサッカーを通じて社会に出る上での前提となる人間性を高め、常に前向きに努力する姿勢を培うことでもあります。学生が、充実した学生生活を送りながら、目標に向かって努力し成長する集団になるよう引き続き支援していきたいと考えております。

妥協しない

愛知東邦大学吹奏楽団監督 白谷 峰人

2016年1月1日。日本を含むアジア・オセアニア地区の代表として、世界でも最大規模といわれる米カリフォルニア州バサディナで開催されたローズパレードに高校生・大学生・卒業生合わせ112人で出場しました。

2019年3月。米フロリダ州オーランドで、単一団体では世界初となる「ディズニールゾートフロリダ」と「ユニバーサルスタジオオーランド」でのWパレードを実施。現地の高校2校とそれぞれ交流しジョイントコンサートも開催しました。

2回の海外演奏活動で得られたものは、ただ単純に演奏・演技技術の向上だけでなく、ミュージシャンシップやショーマンシップの向上など「エンターテインメント」に対する深い考えを体感できたことでした。

言葉では伝わらないもの、言葉はいらないのかもしれない。高校マーチングバンド部とともに、さらに深いエンターテインメントを目指し、「何事にも妥協しない大学生」として、しっかりと後輩たちを先導していく決意です。

次回の海外遠征は2023年の12月、ヨーロッパ圏への遠征を計画しています。



中部国際空港での「セントレア・スカイ・マーチング・フェスティバル」に出演(7月11日)

フレンズ・TOHO講演会を オンライン開催

本年度のフレンズ・TOHOの総会は6月開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症への対応から延期し、11月開催を準備していました。しかし、状況の変化が見通せない中で、総会および懇親会については、中止させていただくこととなりました。

しかし、当会の活動の趣旨を重視し、可能な限り

会員の皆さまに還元できる機会をと、11月5日(金)13時からリモートによる講演会を開催しました。

講師は同志社大学大学院ビジネス研究科専門職学位課程教授の浜矩子氏にお願いし、「小さき者の幸せが守られる経済へ」と題して、オンラインでのリアルウェビナー&トーク企画として行いました。講演を1時間ほどいただいた後、本学園の榊直樹理事長と対談を行いました。延べで150人を超える方々に視聴していただきました。

よみがえる旧赤萩校舎の壁画 常滑で3月22日までINAX企画展

常滑市の「INAXライブミュージアム」で開催中の企画展「壮観！ナゴヤ・モザイク壁画時代」で、東邦高校の赤萩校舎(名古屋市東区赤萩町)時代の「壁画校舎」が写真パネルで紹介されています。企画展は3月22日まで開催されます。

企画展は11月6日にスタート。INAXライブミュージアム企画担当の笈天留さんによると、高度経済成長期、名古屋とその周辺では様々なモザイク壁画による装飾文化が開花しました。背景には、無機質な鉄筋コンクリート造りの新しい建物を装飾する需要が全国的に増えたことに加え、この地域は、常滑や瀬戸、多治見など日本有数のやきものの産地だったことなども関係しているそうです。

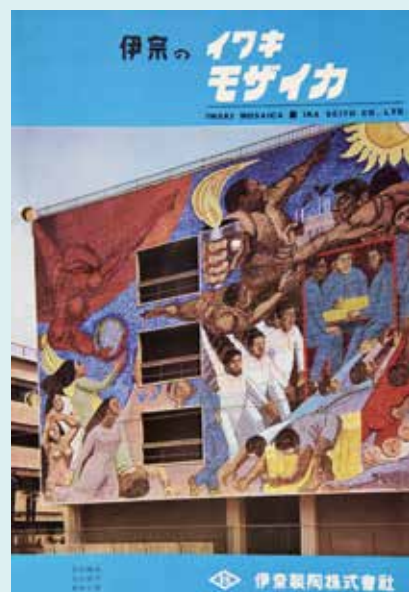
東邦高校の壁画は、赤萩校舎時代、本館(地下1階、

地上4階)が1964年に完成した際、本館西側に二科会の安藤幹衛画伯によって設置されました。写真とともに展示された解説パネルによると、安藤画伯は男子生徒へのメッセージとして、ダイナミックなたくましい躍動感を現しました。さらに、自身のメキシコでの経験を踏まえ、「青年諸君、狭い日本の枠で隠花植物になるより、胸を張って眼を外に向け、海外に飛躍せよ！」という願いを作品に込めたことが紹介されています。

壁画素材には、INAXの前身である伊奈製陶が販売したガラステッセラと呼ばれる色ガラスが使われました。企画展準備過程で、「昭和44年6月12日」(1969年)の保存スタンプが押され、表紙に赤萩校舎の壁画写真が掲載された同社販売カタログも同社収蔵庫で見つかりました。



来場者に東邦高校の壁画校舎について説明する笈さん



伊奈製陶販売カタログに使われた赤萩校舎